



飛田雄一『現場を歩く現場を綴る—日本・コリア・キリスト教』（かんよう出版、2016.6、四六版、250頁、1620円）

< 目 次 >

- 第一章 現場を振り返る
 - 一、日本の中のアジア—in 日朝鮮人との出会いから
 - 二、むくげの会のこと
 - 三、東アジアの和解と共生を問う
 - 四、神戸学生青年センターのこと
- 第二章 “昭和天皇の死”と朝鮮
 - 一、昭和天皇の死と朝鮮
 - 二、昭和天皇の「お言葉」問題、その後
 - 三、昭和の皇民化政策
- 第三章 歴史を知る
 - 一、朝鮮人強制連行と「宗教教師勤労働員令」
 - 二、L・L・ヤングと在日朝鮮人キリスト者
 - 三、YH貿易事件
- 第四章 韓国を歩く
 - 一、はじめての韓国
 - 二、仮面劇・光州
 - 三、日韓NCC-URM協議会
- 第五章 現場を綴る
 - 神戸の現場から他
- 第六章 本を読む
 - 李仁夏著『自分を愛するように「生活の座」から、み言に聞く』ほか



飛田雄一『旅行作家な気分』（合同出版 2017.1 四六版 272頁 1620円）

<目次>

- 01 アジアの中の日本—韓国・北朝鮮・中国への旅から
- 02 随想 濟州島行
- 03 延辺朝鮮族自治州への旅
- 04 韓国への旅 友を訪ねて三千里
- 05 韓国への旅 神戸電鉄敷設工事で犠牲となった朝鮮人労働者の遺族を訪ねて
- 06 韓国原州に張壹淳先生の墓を訪ねて
- 07 韓国お祭りツアー第1弾 江陵端午祭—「見るもの聞くもの、これぞ、お祭り」
- 08 南京大虐殺の現場を訪ねる旅
- 09 阪神教育闘争犠牲者の遺族を韓国を訪ねる
- 10 韓国お祭りツアー第3弾 珍島壺登祭

- 11 韓国「民草」ツアー第1弾 東学の道
- 12 韓国「民草」ツアー第2弾 濟州島「4・3+ハルラ山」
- 13 南京再訪 そして731 & 安重根のハルビンへ
- 14 朝鮮民主主義人民共和国ツアー
- 15 「南京大虐殺への道」を訪ねて
- 16 韓国お祭りツアー第4弾 安東国際仮面劇フェスティバル—訪問の記
- 17 張壹淳先生10周年の集いに原州を訪問して
- 18 上海・南京・大連・旅順フィールドワーク—神戸・南京をむすぶ会
- 19 第2回日韓歴史研究者共同学会in釜山
- 20 濟州島フィールドワーク—2006夏・日本軍の作った軍事施設跡を訪ねる
- 21 濟州島一周サイクリング（2007年）
- 22 濟州島一周サイクリング（2008年）
- 23 中央アジアのコリアンを訪ねる旅—カザフスタン、ウズベキスタン
- 24 延吉に尹東柱の生家などを訪ねて
- 25 南京・海南島・上海への旅—神戸・南京をむすぶ会フィールドワーク2011夏
- 26 ソウル漢江・サイクリング
- 27 むくげの会 釜山・慶州合宿レポート
- 28 またまた行ってきました 濟州島一周サイクリング
- 29 クルーズで釜山に行ってきました
- 30 黄埔軍官学校と朝鮮人—神戸・南京をむすぶ会第19次訪中レポート
- 31 濟州島・李仲燮美術館
- 32 麗水・順天を訪ねて



飛田雄一『心に刻み 石に刻む—在日コリアンと私』（三一書房 2016.11 四六判 255頁 1944円）

<目次>

巻頭インタビュー（聞き手：川瀬俊治）

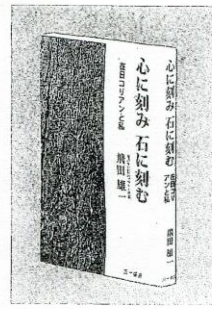
- 第一章 総論
 - ・私の市民運動 “ことはじめ”、そしてそれから
- 第二章 歴史編
 - ・一九六一年・武庫川河川敷の強制代執行
 - ・アジア・太平洋戦争下、神戸港における朝鮮人・中国人・連合軍捕虜の強制連行・強制労働ほか
- 第三章 法的地位
 - ・サンフランシスコ平和条約と在日朝鮮人
 - ・GHQ占領下の在日朝鮮人の強制送還
 - ・難民条約発効より二〇年—改めて日本の難民政策を考える—ほか

アマゾンでも購入できますが、飛田直営店での購入をよろしく。送料とも『現場を歩く、現場を綴る』1500円、『心に刻み、石に刻む』1800円、『旅行作家な気分』1500円。申し込みは、飛田hida@ksyc.jpまたは FAX 078-821-5878（神戸学生青年センター）まで。郵便振替用紙を同封してお送りします。

ひょうご選書

心に刻み 石に刻む

飛田雄一著



多文化共生の一断面

神戸の市民活動にとつて「神戸学生青年センター」という場と館長の飛田雄一という人物は欠かせない存在だ。その場と人が心に刻み、石に刻んできた四十数年間を、飛田さん自身がまとめた。向かいのテーマはいつも硬く、重い。

「日帝下の朝鮮農民運動」や「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集」など、過去の共著のタイトルにそれは表れているが、本人のキヤクターはいたって柔軟、朗らかな。本人いわく優柔不断。

このキヤクターは向う？ ずっと疑問だったのだが、実は数々の運動に取り組む中で「理屈よりも結果」を求めたために、後天的に獲得したものであつたことを本書で知った。

神戸電鉄や神戸港の朝鮮人労働問題では資料を深掘し、フィールドワークを重ね、多くの成果を得た。1980年代、全国に広がった在日コリアンの指紋押捺拒否闘争では、同センターが兵庫連絡会

の事務局に、神戸在任のスリランカ人留学生の治療費を生活保護から支給することを拒否した厚生省（当時）を相手取る裁判では、著者自身が原告となり最高裁まで闘った。阪神教育闘争、武庫川河川敷の強制代執行。忘却されつつある歴史を掘り起こし、現在に位置づける。今、目の前にある課題に向き合い、解決の糸口を探る。その作業の積み重ねが「多文化共生」の実践なのだ。

その真価が問われたのが阪神・淡路大震災。神戸学生青年センターは外国救援の拠点となり、留学生を支援する「大田養正会」や、資金集めとして始めた「五反田」は今も続いている。

神戸大学の学生時代に「平連（ベトナムに平和を！市民連合）こうべ」に加わった著者が、頼み、頼まれる市民運動の関係性の中で「強いネットワーク、軽いフットワーク」という今の運動スタイルを形づくっていく。その経緯がよみ分かる本だ。

6月に出版された「現場を歩く 現場を綴る 日本・コリア・キリスト教」（飛田雄一著、かんきょう出版）と合わせて読めば、神戸の多文化共生の一つの断面をさらに深く知るのよき本だ。

評者＝木村健行・姫路支社（三三書房・1944円）

2016.12.25



B6判 / 247頁 / 1800円
三三書房

心に刻み 石に刻む 在日コリアンと私

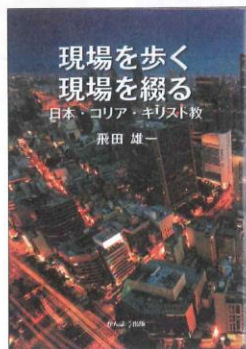
飛田雄一著

〈在日朝鮮人問題は、この間、紆余曲折がありながらも「進展」してきまきたことを嬉しく思います〉著者は神戸大学時代、運動を通じて在日朝鮮人問題に出合い、朝鮮の歴史や朝鮮語を学ぶ「むくげの会」を結成、以降朝鮮人強制連行や戦後の在日運動史を掘り起こし、在日の権利獲得をめぐるさまざまな課題に関わってきた。本書は、自身の足跡を振り返り、その折々の活動や学習の経緯や成果を綴った論稿をまとめたものだ。在日朝鮮人の現代史を学ぶ上でも好適な記録であるが、このテーマに精力的に取り組んできた著者の人柄がにじみでた自叙伝としても読ませる。

出版ニュース201702月上旬号『心に刻み』

BOOK Review

ほんをよむ



現場を歩く 現場を綴る
日本・コリア・キリスト教

飛田 雄一 著

2016. 6. 1 1500円＋税 ○かんよう出版

1970年代から盛んになる在日コリアンの人権運動に当初から中心にかかわり、いまも活躍されている飛田さんが、これまで書かれた文章を特にキリスト教に関係しているものを集めて編まれたのがこの一冊である。現在、神戸学生青年センター館長を務められている。本書には1978年の文章から最近のものまで実に多彩で、当時の時代状況が手に取るように伝わってくる。特に1978年に書かれた「むくげの会」設立のきっかけとなった平連運動に携わっておられた頃をふりかえった文章は興味深い。当時、母親に「農学部でなく平連学部に入学した」となじられるほど熱心に活動を行っていたが、その運動の中で入管法反対闘争も行うのだが、その場限りで終わる運動の限界に疑問を感じ、仲間と差別抑圧研究会をつくる。そこで朝鮮問題を深く追求していくこととなり、朝鮮の抵抗の象徴である「むくげ」の花の名前を取って「むくげの会」と名付けた。日本人が朝鮮問題にかかわるきっかけや葛藤は、現在の運動のあり方にも大いに参考になる。飛田さんには、本書を通じてだけでなく、まだまだご教示いただかなければならないことが多い。（高）